

丹波市未来都市創造審議会（第7回） 会議録（要旨）

- 日時：令和元年8月7日（水）午後2時～
- 場所：柏原住民センター 2階 会議室A
- 出席者委員：
 - 識見を有する者：角野幸博委員、岡絵理子委員、北川博巳委員
 - 公募による市民：荻野美恵子委員、白滝里香委員
 - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、田中延重委員
 - 各種団体等から選出された者：足立由夏委員、大木玲子委員
 - 関係行政機関の職員：飯塚功一委員
- 欠席者委員：
 - 公募による市民：本庄健吾委員
 - 公共的団体の代表者：坂谷高義委員
 - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員、十倉貫委員
- 出席職員：
 - 丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、福祉部長兼福祉事務所長（代理：地域包括支援課長）、健康部長、産業経済部長、建設部長、消防長、教育部長
- 事務局：
 - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、未来都市創造部都市創造課都市政策係長、未来都市創造部都市創造課職員

議事：（1）丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」答申案について

- 配布資料：【資料1】丹波市の未来をえがく Vol.7 ニュースペーパー
- 【資料2】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」（原案）に対するパブリックコメントの結果
- 【資料3】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」答申案
- 【追加資料】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」資料編
- 【追加資料】まちづくりビジョン イラスト（案）

1 会長あいさつ

会長

本日が、昨年度市長から諮問された「まちづくりビジョン」の策定に関する最後の審議会となる。前回の審議会の開催後、「まちづくりビジョン」の原案に対するパブリックコメントを実施した。本日の審議会では、パブリックコメントで出された意見、それらに対する市の考え方について事務局が取りまとめているので、その説明をしていただき、最終的なとりまとめについて審議をしていただく。本日の審議の結果、「まちづくりビジョン」を市長に答申することになる。最後の審議会となるので、引き続き慎重なご審議をお願いしたい。

2 議事

(1) 丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」答申案について
事務局（資料2、資料3、追加資料の説明）

【意見要旨】

会長

追加のイラストはどこに入れるのか。

事務局

表面のイラストに関しては、ビジョン 35 ページの後ろを予定している。裏面の未来都市構造のイラストに関しては 50 ページの後ろで「まちづくりビジョンの実現に向けた施策の取組方向」の前に入れる予定である。

また、第5章に掲げている8項目「公共交通と道路網」から「地域に根差した生業」まで、それぞれの項目のイメージができるようなイラストもビジョンに入れる予定である。

委員

本日配布されたイラストの表面について、これだけを見ると、同じエリアが単に元気になっただけに見えて集約したイメージがわからない。「あるものを無くす」ような絵は描きにくいとは思いますが、イメージが伝わりにくいように思う。裏面は粗密の表現があまりできておらず、どこも密度が高く見える。四角い建物については、コンクリートの役所的な建物がまんべんなく建っているのではなく、屋根のついた大きな建物があるようにするなど、今回のビジョンの内容が伝わるようにしていただきたい。

会長

粗密や集約の表現は、イラストにするのは難しいが、できるだけご検討いただきたい。イラストについては、最終、岡委員に確認していただくということをお願いしたい。その他の文言内容については、事務局と私の方で調整していく。

委員

公共交通を代表して述べると、裏面の都市構造イラストは道路上の移動手段も重要であるのでバスやデマンドタクシーも記載していただきたい。

委員

54 ページの上から二つ目の写真「新病院アクセス道路(東西)」に関して、このルートは現在できないことになっているので、この写真を載せておくのはいかがなものか。

建設部長

これは当初のルートであり、今このルートは成立しない状況である。ここだけ写真をなくすと違和感があるので、全て写真を取り除くか検討が必要である。

事務局

54 ページに関しては、枠外に記載しているが、左のページを補完するための「関連するデータや資料」の位置づけである。この部分については、「当時のデータである」という注記を付けて載せるか、これよりも分かり易い資料があれば差し替えるか、調整させていただきたい。

会長

計画内容そのものではないとしても、誤解の生じるようなことは避けていただきたい。文言については、何度も確認してきたが、図表、写真に関して見落としがないよう再度確認していただきたい。

他にご意見はないか。なければイラストは岡委員と事務局、全体の取りまとめは私と事務局で最終調整を進めるということで、これで本日の審議を終了させていただく。

3 その他

(特に意見、連絡事項等なし)

4 感想

会長

本日をもって、本審議会での審議を終了する。折角お集まりいただいたので、委員の皆様の感想を一言ずつお伺いしたい。

委員

時間をかけてまち全体を考えるとという機会は、なかなか少ない。縮小する計画を作るということは、大事なことではあるがなかなかやりにくいものである。何とかまとまって、まだ広いとは思いますが中心的なエリアが定められて、その周囲については最先端の技術を使いながら上手く暮らしてい

けるようにしたいと、そういう気持ちを持って計画ができたことを嬉しく思う。生業については、市をあげて頑張っていたきたい。

委員

20年後の姿を考えるとというのは大変難しいと最初から思っていたが、みなさんと話をしているうちに、このように形を整えていくのかというヒントがあって勉強になった。ICTや情報技術がこれから先、かなり浸透していき、産業構造もガラッと変わっていく。どうなるか私もいまだに見えていないが、まちづくりの中で生き方をどう考えていくか、これからのいい研究の材料になるだろう。引き続き交通問題などを考えながら、未来を検討していただければと思う。

委員

20年後の丹波市を考える中で、自分の中でイメージができた。色んな意見が聞け、勉強ができた。市島地域の吉見地区の川裾祭という祭りは、2年間花火ができていなかったのが、今年復活してきた。言い出したのはある女性で、それを否定せずに一回やってみようとして動いて、2か月足らずで実現に至った。リーダーがいて地域性を踏まえ、ワカモノ、ヨソモノ、バカモノの3者が揃った実行委員会で、新しいまちづくり、人づくりができた。新しい地域づくりができるように思う。たった1日のイベントだったが、成功させることによって、市島地域の未来が見えてきたように思う。否定するのではなく、面白いなと考えて、何とかやろうという協働があれば、様々な発想の新しい丹波市づくりができるのではないかな。

委員

限界集落となって、20年後がどうなるか、子どもが帰ってきて住まなければどうなっているか想像ができない。そのような中でこの審議会に関わり、今おられる人で地域を守る、住んでいる人が頑張ることで地域を元気づけることが大事なのだと思う。生活するためには、病院や役所に行くなど、生活できる手段が大事になるので、デマンド交通や公共交通のあり方が課題である。今住んでいる人が大事にされる、周辺地に住んでいる人が安心して暮らせるような未来が描けたらいいな、という希望を感じた。

委員

人口減少と高齢化が同時に進む中で、丹波市の将来がどうなるか。様々な角度から色々なお話が聞け、勉強ができた。夢と希望が持てて、ワクワク感がでた会議だったと思う。答申を受けて、実際に、具体的に、次にどのような段階に進んでいくのか、大変興味がある。

委員

広い目で見ると世界の先進国では人口が増え続けている中、唯一日本のみ人口が減り続けている。これまでは、需要の拡大を図る中で、供給をし、それによって経済を活性化、地域の活性化を図っていた。これからは、20年先を考えるまでもなく、規模が縮小していくことになる。そうした

中で、20年後のあり方をその都度、将来予測を立てながら、計画を組み直すことが必要となる。デマンドなどの補う施策が必要であり、拡大していく施策はできなくなっている。これから行政はかじ取りが難しくなってくる。インバウンドも盛んに叫ばれているが、外国人向けなど、丹波市がどのような方向に進んでいるのか見定めて、観光施策など発想の転換も必要となる。20年後の将来を楽しみにしている。

委員

団塊の世代の私がこのような場で発言できる機会をいただき、感無量でありました。丹波市まち全体の20年後のイメージを考えることは難しいものであったが、皆さんの意見を聞いて非常に勉強になった。何をやるにも仕掛けをしていく事が大事なのだろうと思いつつ、イベントや子どもの地元学習などを進めている。若い世代につながるような取組、未来につながる、未来を見据えた取組を自治会においても、少しずつでも着実に進めていかなければいけない。

委員

20年後というと思うのが難しいので、50年後を話すべきではないかと前から思っていた。10年後には自動運転ができていると思うし、技術的な変化とともに人間の意識、生き方も含めて、変わってくると思うし、変わらざるを得ないと思う。生活の拠点ともう一つの拠点の2拠点を持った生活もできる。終身雇用もなくなるが、仕事がなければ起業するというような発想に変わっていかないといけない。

小学生・中学生にアンケートして意見を聞ければ面白いと思う。いろいろな機会でも小学生や中学生の意見を聞いていければと考えている。今後は、個人的な視点で活動に関わっていきたい。

委員

20年後を考えるとなかなか浮かんでこないが、今日が幸せに過ごせた、明日が幸せに過ごせた、1ヵ月後に幸せに過ごせた、1年後が幸せに過ごせた、そういうことが続いて、10年・20年続いていき丹波市があるのかと思う。地域住民の方と一緒に生活していくといった原点に帰って考えることができ、いい機会であった。

委員

まだまだ私たちは与えられたことしかできていない。人材不足は喫緊の課題となっているが、その中で、変化に対応できるようにしながら守るべきは守るということを、行政と一緒に考えていかないといけないと感じた。これからは、市民と一緒に動いていかなければならない。

委員

今年からということで、2回しか参加していないが、今の皆さんの思いを聞いて、去年から参加できていればと思った。ビジョンはかなり議論をされていて、住民の思いが詰まっているものだと感じた。

委員

20年後を考えるのは難しいと思う反面、20年前どうしてきたかと考えた。柏原では、20年前に民間が出資して「まちづくり柏原」という会社を立ち上げて、20年後の今なんとか柏原を維持してきた。そのような中で、新たな発想としてホテルの計画もでてきた。残念ながら議会の賛同は得られなく、住民がもう少し行政としっかりとタッグを組んでできるようにならないといけない。街の中でも高齢化が進んでいる。街中は危機感がないが、努力、発想の転換をしなければ、街を守っていけない。みんなが一緒にできることをやっていくことでないと地域を守っていくことができない。非常に良い勉強させていただいた。

会長

どうもありがとうございました。この審議会は、当初の予定よりも数ヶ月延長しました。それだけ議論を深めることができましたし、また自分たちのこととして議論し合うことができたのではないかと考えています。縮退していくための構造、その中で活力をいかに保持していくかということは日本全国の多くの地域が抱えている課題であり、その先端をこの丹波市が走りながら、新しい提案のまちづくりができればと思っています。

実は今、兵庫県史を書く仕事をしています。特に50年分の兵庫県下の各地の地域開発史を書いている最中ですが、そうすると20年などはすぐだという実感があります。過去50年を見ながら次の20年、あるいは50年を見ていくと、本当にいろいろなことが起こると実感していますので、委員会に参加された方々には、是非、活動を地域の方々に引き継いでいただいて、地域づくりを進めていただきたいと思います。本当に長い間、ありがとうございました。

5 閉会

事務局

答申は、8月22日を予定しており、会長、副会長に出席をいただく予定である。答申書の内容等は、会長、副会長と話し合い、作成させていただく。

副市長

昨年の4月に第1回の審議会を開催し、本日の第7回まで、大変丁寧な審議をしていただき、多くのご意見をいただいた。大変すばらしいビジョンができたものだと思う。

20年後の丹波市の都市のあり方、構造をどうしていくかということだが、20年後に市民の皆様方がどのような暮らし方をしているのか、どのような働き方をしていきたいのか、その合意形成ができていけば、それにあった都市構造ができる。重要なのは、どのような生き方をしたいかが明確になるかどうかである。その意味で、重要な議論をしていただいた。

委員の皆様方から、議論が非常に難しいというご意見を多々いただいた。これは、このビジョンが市独自の課題認識に基づく計画であって、一から考えていく必要があったからだと思う。また、20年先を見据えるということは、夢を語ると同時に、深刻化していく課題をきっちりと認識してい

かないといけないという両面がある。丹波市としては、国が進めるコンパクトシティとは異なる考えをだしていく。その意味でも、新しい考え方ということで難しかった。庁舎の問題など利害関係があるものもあったが、それに関しても盛り込ませていただいた。

難しいビジョンであったが、今後、総合計画、都市計画マスタープランや人口ビジョン、総合戦略などに、このビジョンをきっちりと反映させていただく。きっちりと実現させていくため、各部の個別計画、政策の中で実現できる方策を考えていく。市として、市民の皆様と共に進めていく。

副会長

以上をもって、第7回目の審議会を終了させていただく。今後、ビジョンの内容について最終調整をして、市長に答申させていただく。これまでいろいろと熱心にご議論いただき、ありがとうございました。

以上